

# 一 般 質 問 通 告 書

令和 6年 2月 21日

高島市議会議長 廣本 昌久 様

高島市議会議員 5 番 板持 文子

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁  
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発 言 事 項	未来に希望あるまちづくりになっているか
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	<p>第2次高島市総合計画は、平成29年度から10年間を計画期間としておりますが、今般、社会環境の変化や、それに伴う新たな行政課題に対応するため、基本計画部分の中間見直しを行い、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする「後期基本計画」を令和4年3月に策定されています。</p> <p>総合計画はまちづくりの指針となる最上位計画です。その中で国立社会保障・人口問題研究所（社人研）によると、人口は5年ごとに3千人ほどずつ減少し、2065年には2万1千人と推計されています。</p> <p>令和8年の人口フレーム（まちの規模感）は、総合戦略における人口目標と整合を図るため前期基本計画時に設定していた4万7千人から4万5千人に下げて策定されています。</p> <p>一方、国の「異次元の少子化対策」は明らかに間違っていると、人口増加率日本一の兵庫県明石市泉元市長はおっしゃっています。子育て支援に注力した明石市は、移住先に選ばれ11年連続人口増となり、独自の子ども政策により5年間で1万人増となっています。</p> <p>明石市は2015年に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で「人口30万人」を目標の一つに掲げており、およそ5年で達成されています。</p> <p>「子どもの施策は未来政策」の中で、いち早く子育て支援に取り掛かっておられます。現在、明石市と同じように高島市も施策があり、その一部を紹介しますと、高島市は2023年8月から子どもの医療費が高校3年生まで無料化で、明石市も2021年7月からされています。</p>

また、市内小中学校の給食費の無償化も 2021 年 4 月から実施しており、明石市も 2020 年 4 月からされています。

その他、0歳児の見守り訪問「おむつ定期便」も今定例会に上程されており、4 月から実施予定とのことですが、明石市も 2020 年 10 月から実施されています。

明石市の「おむつ定期便」では、市の研修を受けた配達員が、毎月おむつや子育て用品を自宅にお届けし、その際、育児の不安や悩みを聴いたり、役立つ情報をお伝えされています。

その他にも、保育施設等での使用済み紙おむつの保護者持ち帰りについて、保護者や保育士等の負担軽減や衛生面への配慮のため廃止し、明石市では、2022 年 4 月から施設が自園で処理を行うようにしました。施設には市から補助を行うことで、おむつ処理に係る保護者の手間や実費負担をなくされています。高島市も 2023 年 7 月から公立園全園と私立園もほとんどの園が自園での処理を行うようになりました。

今 3 月定例会でも保育士への支援制度や保護者負担を軽減する施策があげられ、子育て支援は滋賀県下でも手厚い市となってきています。

明石市は、「本当に住みやすいまち NO.1」の評価の中で、地域交流拠点となる複合施設、駅を中心としたまちの活性化が期待されるという発展性が特に評価されています。地理的条件などは違いますが、「市民のニーズを把握して、それに応える。だから市民の満足度が高まり、人口が増えるんです」と泉元市長はおっしゃっています。

「子育てと移住」は今、人口減少を食い止めるキーワードになっています。

人口減少や少子高齢化、環境や教育、防犯・防災など地域社会の課題が複雑かつ多様化しており、従来の公平・画一的な行政サービスだけでは十分に対応できないことが多くなってきている中で、高島市は、平成 27 年度から市民自らが感じる地域の様々な問題や地域振興を考え魅力あるまちづくりを推進するための「高島市まちづくり推進会議」を設置されています。

【まちづくりの答えは 市民の中にある】のメッセージから、「まち」は、様々な視点からのトライ&エラーを繰り返し人の暮らしを前へとすすめていく基盤となっています。「まち」の未来に想いを馳せた時「交流」がなければ、「まち」は、たちまちその役割を失っていくことが目に見えると、多世代交流の場の大切さが話されています。

ハード面では、公共施設再編計画があり、公共建築物の施設保有量を令和 26 年度までの今後 30 年間で 50%削減とされています。これは、総床面積ベースで約 182,000 平方メートル（平成 26 年度比較）の削減です。

再編計画策定の背景と目的には、高島市は、旧 6 町村が合併し誕生した市であり、旧町村ごとに重複した施設が多く存在し、一人当たりの公共施設の延床面積は、県内他市の平均 3.69 m<sup>2</sup>/人に対して、高島市は 7.29 m<sup>2</sup>/人で 1.98 倍となっており、県内他市と比べて最も多い状況の中で、本市では人口減少と少子化・高齢化が進行しており、今後において公共施設の利用の減少や利用形態が大きく変化することが予測され、公共施設の縮減目標を令和 26 年度までに延床面積を 50%削減と定められました。

また、高島市公共施設等総合管理計画では10年を単位として、今年度の令和6年度中に見直すこととなっています。

公共施設再編計画の概要版では、公共施設再編の基本的な考え方として

①公共施設のムダを解消

老朽度や利用・コスト状況等から必要な施設や機能を見極めることで過大な保有量や老朽化施設を解消

②施設の重複への対応

③施設重視から機能重視への転換

集約化や複合化によって機能（ソフト）の維持を優先とした公共施設（ハード）の統廃合等の実施

④再編理念や方向性の検討

再編理念を確立し、将来のまちづくりのあり方をイメージした検討の視点による公共施設再編の実施

⑤再編パターンの考え方

譲渡・廃止、多機能化、転用、維持等の再編パターンごとの考え方を整理

⑥進捗状況のフォローアップ

このように、高島市総合計画、人口ビジョンや公共施設再編計画を見て人口減少を想定し、縮小型のまちづくりが計画されているように見えますが、それぞれの計画に明るい未来を描かれているかどうか。以下のとおり質問いたします。

1. 人口増に向けての具体的な目標計画はあるのか。
2. まちづくりの財政を豊かにするために、ふるさと納税をさらにのばす為の方策はあるか。
3. 明石市のように人口を増やすビジョンでまちづくり施策が作られているか。もっと意欲的に大前提を見直すべきと考えるがどうか。
4. 総合計画の人口フレームによって、縮小型の消極的まちづくりに見えるが、希望ある積極的未來投資計画は考えているか。
5. 今の公共施設の再編が、市民の意見が反映されるような再編になっているか。
6. 公共施設再編計画に再編理念を確立とあるが、どのようなものか、また将来のまちづくりのあり方をイメージした検討は、どこの部署が担っているのか。
7. 公共施設の集約化、複合化により地域コミュニティの核となる施設となり稼げるにぎわいゾーンを創出するための計画はあるか。またコーディネートを考える場や機会はあるか。
8. 公共施設再編の計画に、まちづくり推進会議や住民自治協議会、またはまちづくり公社などで、官民が一緒になって協議できる場を作ってはどうか。
9. 近江今津駅から歩いて利用できる利便性の高い高島市民会館の利用状況はどうか。  
また、年間数回しか利用されない施設の稼働率を上げるための施策や経営努力はあるか。
10. 高島市には、安曇川地域の公立古賀保育園と高島地域の公立高島こども園がありますが、古賀保育園が2年後に閉園予定で、高島こども園も5年後の閉園案についての意見聴取会が昨年11月にありました。保護者の中からは安曇川・高島地域から公立園が無くならない

で欲しいとの声があがり、1月には保護者が主体的に43世帯にアンケートを行われたところ、32件の回答があり、閉園に賛成0、反対20、どちらとも言えない12の結果でした。これを受けて、市としての考えはどうか。こうした公立保育園の閉園の検討は、人口が減っていく準備をしているのか。

11. 高島市もおむつ配布がこの3月議会で上程されています。明石市のように市の研修を受けた子育て経験者が、配達時に育児の不安や悩みを聞きながら声をかけ、赤ちゃんと保護者の見守りを兼ねたお届けになっているが、高島市はどうか。